

授業科目名	保育実習Ⅱ	教員名	山下 愛実	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	選択
					小学校教諭	選択
科目番号	JIS402	配当年次	4年前期		幼稚園教諭	選択
					保育士	必修
授業形態	実習				こども音楽療育士	
単位数	2単位				情報処理士	
科目						
施行規則に 定める科目区分						
一般目標	<p>保育の現場において学内で学んだ保育の知識や技術を生かして、子どもと直接関わる中で、子ども理解や実習施設への理解を深め、保育の実際を体験的に学習する。保育に参加し、実習する保育所の保育の目標、保育所の一日の流れや乳幼児の発達過程を理解する。そして、養護と教育が一体となって展開される保育内容や、保育の計画や方法、観察・記録等について具体的に学ぶ。また、専門職としての保育士の役割と職業倫理について理解する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。</li> <li>2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。</li> <li>3. 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に理解する。</li> <li>4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。</li> <li>5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結び付けて理解する。</li> <li>6. 実習における自己の課題を明確化する。</li> </ol>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	<p>本講義は、学科のディプロマポリシーに掲げる「2. 教育者としての情熱を持ち、正しい倫理観と責任感を身につけている」「3. 教育者として、持つべき十分な記述力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている」「4. 教育に関連する事柄について、継続的・主体的に学ぶ学習能力を身につけている」「5. 教育実践力を身につけている」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている」を育成する科目として配置している。</p>					
授業の概要	<p>4年前期終了後、学外の保育所に通い、おおむね10日間実習を行う。実習内容は参加実習、部分実習、責任実習とする。保育現場で子どもや保育士の姿に触れ、観察やかかわりを通して保育所で行われている事業全体を学ぶ。また、アクティブラーニングとして、実習に臨むにあたっての自己課題に基づき、自ら問いをもって意識的に実習に取り組むことに加え、実習記録を作成し、保育者との対話を通して、自身の子どもへの関わり方や保育者の援助の見方・考え方を捉える力を養い、主体的に学びを深める。</p>					
履修条件・注意事項	<p>保育実習Ⅱを実施するためには、実習実施条件（成績状況等）を満たさなければならない。また、事前・事後指導である保育実習指導Ⅱを受講すること。</p>					
授業計画	<p>主に、参加実習、部分実習、責任実習とする。おおむね10日間の実習を通して、下記の事柄について学び、習得していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割や機能の具体的展開（目標1） <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 養護と教育が一体となって行われる保育の実際を理解する。</li> <li>(2) 保育所が担っている子どもや保護者に対する役割や地域における機能を理解する。</li> </ol> </li> <li>2. 保育の理解（目標2） <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 一人ひとりの子どもをよく観察し、子どもの特徴や興味・関心を理解する。</li> <li>(2) 観察や関わりを通して乳幼児の遊びや生活の実態を把握し、子どもの発達過程を理解する。</li> </ol> </li> <li>3. 子どもの保育及び保護者支援（目標3） <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもが自立的に生活できるように関わり生活や遊びを通して総合的に行う保育を理解する。</li> <li>(2) 個と集団の関係性を理解するとともに、環境を通して行う保育を理解する。</li> <li>(3) 子育て支援のニーズを理解し、子どもの保護者に対する子育て支援および地域の保護者等に対する子育て支援について学ぶ。</li> </ol> </li> <li>4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等（目標4） <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育の計画・実践・省察・評価と保育の過程について理解する。</li> <li>(2) 実際の取り組みを通して、計画に基づく保育実践のあり方を理解する。</li> <li>(3) 保育実践を行い、子どもの姿や自らの保育実践を振り返り、評価について理解する。</li> </ol> </li> </ol>					

	<p>5. 保育士の業務内容や職業倫理（目標5）</p> <p>(1) 保育士の動きや連携の様子を観察し、職員の役割分担を理解し、チームワークの具体的な姿を学ぶ。</p> <p>(2) 子どもの人権の尊重、守秘義務の遵守、個人のプライバシーの保護等について具体的に学び、理解する。</p> <p>6. 実習における自己の課題の明確化（目標6）。</p> <p>実習を通した学びや課題を明確化し、保育者を目指す者として学び続ける姿勢を持つ。</p>
授業外学修時間の確保について	毎日の実習の振り返りを実習日誌に記述し、実習施設に提出する。また、実習施設より課された課題を期日までに仕上げる。
学生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習施設による評価を100%とする。</li> <li>・60%以上を合格とする。</li> </ul>
テキスト	
参考書・参考資料等	<p>『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府 フレーベル館</p> <p>『新版遊びの指導一乳・幼児編一』 公益財団法人 幼少年教育研究所(編) 同文書院</p> <p>参考資料等：授業での配布資料</p>
担当者からのメッセージ	実習先との報告・連絡・相談を欠かさず、自分の判断で動くことのないようにすること。判断が難しい場合は、必ず実習園の実習担当、または養成校の実習担当に相談すること。大学での最後の実習となるため、将来を見据えた実習にし、責任感をもって行動するとともに、主体的に参加することで保育者としての資質・能力の向上につなげられることを期待している。
オフィスアワー	毎週 金曜日 9:05~10:35 (メール等でアポイントを取る)
備考	